

【洞爺湖ビジターセンター「エコ・ギャラリー」概要】

今夏、「G8北海道洞爺湖サミットが開かれる洞爺湖」を国内外から訪れる利用者に対して、国立公園の自然環境保全だけでなく、地球温暖化、生物多様性、3 R等の環境問題について分かりやすく伝えていくため、支笏洞爺国立公園の洞爺湖ビジターセンター敷地内に、環境学習展示施設を設置し、普及啓発を図ります。

1. 「エコ・ギャラリー」施設概要

(名称) 洞爺湖ビジターセンター「エコ・ギャラリー」
(位置) 洞爺湖ビジターセンター敷地内の芝生広場 (1,500m²)
(洞爺湖町洞爺湖温泉142番 5 電話0142-75-2555)
(規模) 展示用テント800m²

2. 展示テーマ

21世紀環境立国戦略の3本柱である低炭素化社会、循環型社会、自然共生型社会の実現に向け、環境学習(小学校高学年が理解できる程度)の視点から様々な環境問題に関する展示を実施します。

(展示項目)

- 【1】地球温暖化(地球温暖化による影響、地球温暖化対策、地元の洞爺湖町等が進めるチームマイナス50%事業等)
- 【2】3 R(廃木材からのバイオエタノール製造と利用に関する紹介等)
- 【3】生物多様性(絶滅危惧種、里地里山、外来生物、生物多様性国家戦略等)
- 【4】美しい日本の自然(国立公園、北海道の自然等)
- 【5】食と環境(フードマイレージやバーチャルウォーター等)
- 【6】日本の公害克服の歴史の紹介

なお、展示項目はオープン後に追加される予定であるものも含まれます。

また、常設展示のほか、周辺の自然や温暖化防止対策の見どころなどの紹介、北海道産の植物を用いた壁面緑化技術の紹介、各種共催イベントなどの企画展示を計画しています。

3. 展示用テント等の環境配慮

- 【1】仮設テントは他のイベントに再利用(リユース)できるものを使用し、さらにテント地にはバイオマス膜材を用いることで、原料であるケナフの育成時に二酸化炭素の発生を抑制するほか、最終的に紙としてリサイクルできるなど、環境にやさしい展示施設づくりを行っています。
- 【2】展示物は、収納、移動の容易な段ボール組立てユニットによるものとし、展示期間終了後、他のビジターセンターや各種イベント等で再利用予定
- 【3】壁面緑化に用いた植物材料は北海道在来植物を使用し、展示期間終了後、地域の環境学習等で活用
- 【4】電力は、敷地内の太陽光発電施設から完全に供給可能